

第1学年国語科学習指導案

日 時 平成18年11月2日(木) 授業Ⅱ
場 所 1年1組教室
児 童 男子15名 女子17名 計32名
指導者 菊地 早苗
すこやかサポート 中嶋 芳子

- 1 単元名 本とともにだちになろう (光村図書 1年下)
教材名 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

2 単元について

(1) 教材について

本教材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」は、主人公「ぼく」が、愛犬エルフをいかに愛していたかが、回想の形をとって展開されている。第三者から見た話ではなく、主人公「ぼく」の視点から語られる形式をとっている。「ぼく」とともに成長していくエルフだが、「ぼく」よりずっと早く年をとっていくエルフ。年をとったエルフに柔らかいまくらをやって、寝る前には「ずうっと、大すきだよ。」と言ってやった「ぼく」の行動から、いかにエルフを愛していたかが分かる。やがて、エルフは死んでしまうが、エルフの死後の「ぼく」の気持ちについても語られている。

1年生の児童は、生き物に対して非常に強い興味・関心をもっている。実際に餌をあげるなどペットの世話をしている児童もいる。そのため、児童が主人公の「ぼく」に同化しながら読むことができる教材であると考えられる。

(2) 児童について

学習に対して意欲的に取り組もうとする児童が多い。家庭学習で音読に取り組み、ほとんどの児童が、単元の終わりにはすらすら読めるようになっている。しかし、慣れてくると暗記してしまいきちんと文字を目で追って読まないため、語尾が誤っていたりする児童が数人いる。

書くことについては、教師のマス目黒板の視写を見て、同じくらいの速さで視写することができる児童が半分ぐらいになったが、まだ時間のかかる児童もいる。姿勢や鉛筆の持ち方については、指導を続けているが、書き進むにつれてくずれてしまうことがあるので声がけをしながら取り組ませている。

読書については、本を好きな児童が多く、週に一度の読み聞かせを楽しみにしている。また、自分でも熱心に読むことができる。

(3) 指導にあたって

第1学年及び第2学年の読むことの目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。

児童は、これまでに「はなのみち」「おむすびころりん」「大きなかぶ」などの教材により、物語の大体の内容をとらえたり、場面の様子や登場人物の気持ちを考える学習をしてきている。「大きなかぶ」の登場人物の気持ちを考える活動では、課題解決のための文章を視写し、視写をして気持ちを考える学習をしてきた。しかし、時間内に視写や気持ちを考えることができない児童もいた。

本教材においては、多くの児童が自分の考えを持つために時間を確保し、全員が視写しながら自分の考えを持つことができるようにしていきたい。また、時間の経過を表す接続語などにも触れながら、「ぼく」とともに成長しながらも、どんどん老いていくエルフの様子に気づかせていきたい。

ひとつひとつの語句や表現に注意させることにより、正しく豊かに読む力を養いたい。

読書との関連については、本教材を学習していくことと平行して、動物が主人公で自分がみんなに紹介したい本を選ばせておく。また、教師が図書の時間を利用して、動物が主人公の本を何冊か読み聞かせをし、本を選ぶのが苦手な児童への支援としたい。

3 単元の目標

(1) 関心・意欲・態度

- ・ 易しい読み物に対して興味を持って読もうとしている。(読ア)

(2) 読むこと

- ・ 場面の様子や登場人物の行動などについて、想像を広げながら読むことができる。(読ウ)

(3) 書くこと

- ・ 正しく視写することができるとともに、考えたことや想像した事などについて書くことができる。(書ウ)
- ・ 友達に紹介したい本を選んで、観点に沿って紹介文を書くことができる。(書ア)

(4) 話す・聞く

- ・ 今までに読んだ本の中から、好きな本を友達にわかるように紹介することができる。(話・聞ア)
- ・ 友達の本の紹介で、いいなと思うところを考えながら聞く。(話・聞イ)

(5) 言語事項

- ・ 文の中に出てくる新しい漢字や片仮名の読み方や使い方を知り、使う。(言イ (ア))

4 指導計画 (12時間)

段階	時間	ねらい	学習活動	具体的評価規準
つかむ	1	・学習への関心を持つ。	・教師の読み聞かせを聞き、感想を持つ。 ・新出漢字・片仮名の学習をする。	(関) 教師の範読に興味を持って聞こうとしている。 (言) 新出漢字・片仮名の使い方が分かる。
	2	・全文を読んであらすじをつかむ。	・全文を読み、ポイントになる語句をおさえ、できごとの大体をつかむ。	(読) 物語の大体の内容をつかむことができる。
	3	・学習の見通しを持つ。	・学習課題を作り、学習の見通しを持つ。	(関) あらすじを確かめ、意欲を持って取り組もうとしている。
たしかめる	4	・エルフと「ぼく」が、いっしょに大きくなり、とても仲がよかったことを読み取る。	・エルフと「ぼく」がしたことが書いてある文を手がかりに、エルフと「ぼく」がとても仲がよかったことを読み取る。	(読) エルフと「ぼく」がとても仲がよかったことを読み取ることができる。
	5	・「ぼく」の家族がエルフのことをどう思っていたかを読み取る。	・エルフと「ぼく」がしたことが書いてある文を手がかりに、エルフが元気だったことや家族のエルフに対する気持ちを	(読) 「ぼく」の家族がエルフのことをしかっていながらも好きだったことを読み取ることができる。

			読み取る。	
	6	・年をとったエルフを心配して病院に連れて行く「ぼく」の気持ちを読み取る。	・「ぼく」がしたことが書いてある文を手がかりに、大好きなエルフになにかしてあげたい「ぼく」の気持ちを読み取る。	(読) 年取ったエルフをとっても心配している「ぼく」の気持ちを読み取ることができる。
	7 本 時	・階段も上れなくなったエルフに毎晩「ずうっと、大すきだよ。」と言ってやった「ぼく」の気持ちを読み取る。	・「ぼく」がしたことと話した言葉に着目し、エルフに毎晩声をかける「ぼく」の気持ちを読み取る。	(読) 階段も上れなくなったエルフに対して、毎晩声をかける「ぼく」の気持ちを読み取ることができる。
	8	・エルフが死んだ時の「ぼく」の気持ちを読み取る。	・「ぼく」がしたことが書いてある文を手がかりに、悲しいけれど毎晩エルフに「ずうっと、大すきだよ。」と言ってやって良かったと思っている「ぼく」の気持ちを読み取る。	(読) エルフが死んだ時の「ぼく」の気持ちを読み取ることができる。
	9	・エルフがいなくなったからの「ぼく」の気持ちを読み取る。	・「ぼく」がしたことが書いてある文を手がかりに、エルフのことが忘れられずにいることや、これからどんな動物を飼っても大切にしたいと思っていることを読み取る。	(読) エルフのことを忘れられない「ぼく」の気持ちやこれからどんな動物を飼っても大切にしようと思っている「ぼく」の気持ちを読み取ることができる。
ま と め る	10	・物語の感想を書く。	・今まで学習してきたことをもとに感想を書く。	(書) 物語の感想を書くことができる。
ひ ろ げ る	11	・友達に紹介したい本を選んで、観点にそって紹介の文を書く。	・動物が主人公の本で、みんなに紹介したい本の紹介文を書く。 <u>関連図書</u> 「どろんこハリー」「ともだちや」	(書) 本の題名、出てくる動物、出来事の三つの観点を入れて、紹介カードを書くことができる。
	12	・本の紹介カードを見ながら、発表したり聞いたりする。	・カードに書いたことを、はっきりした発音で話す。 ・友達の発表を関心をもって聞く。	(話) 友達に聞こえる声ではっきりした発音で話すことができる。 (聞) 友達の発表を関心をもって聞くことができる。

5 本時の指導

(1) ねらい

階段も上れなくなったエルフに、毎晩「ずうっと、大すきだよ。」と言ってやったぼくの気持ちを想像する。

(2) 展開

段階	学習活動・教師の働きかけ	期待する児童の反応	・留意点 評価 ☆サポート
つかむ 7分	<p>1 前時の想起</p> <p>○ぼくは、エルフのことが心配でしたが、どうしてでしたか。</p> <p>○そこで、どこへ連れて行ったのですか。</p> <p>○獣医さんは、なんといいましたか。</p> <p>○それを聞いて「ぼく」はどんな気持ちでしたか。</p> <p>2 学習課題の確認</p> <p>なぜ、ぼくは、エルフに「ずうっと、大すきだよ。」といてやったのだろう。</p>	<p>・太っていったから。</p> <p>・寝ていることが多くなったから。</p> <p>・散歩を嫌がるようになったから。</p> <p>・獣医さん。</p> <p>・「エルフは、年をとったんだよ。」</p> <p>・もっとできないことがふえるかもしれない。</p> <p>・治療できなくて残念。</p> <p>・エルフを大事にしよう。</p> <p>・一斉読</p>	<p>・心配して獣医さんに連れて行ったが、できることはなにもなかったことをおさえる。</p>
たしかめる 33分	<p>3 課題解決への取り組み</p> <p>(1) 学習場面の音読</p> <p>●エルフがどうなっていったか考えながら聞きましょう。</p> <p>(2) 学習場面の読み進め</p> <p>○まもなくエルフはどんなことができなくなりましたか。</p> <p>○階段も上れなくなったエルフのためにぼくがしてあげていることを絵を見て考えましょう。</p> <p>○階段を上れなくてもやらなくちゃいけないことはなんでしょう。</p> <p>○どうしてぼくの部屋で寝なくちゃいけないのでしょうか。</p> <p>(3) 視写</p> <p>○ぼくは、いつも寝る時エルフ</p>	<p>・一斉読</p> <p>・順番読み(2人)</p> <p>・階段を上れなくなった。</p> <p>・優しく声をかけている。</p> <p>・だっこをして階段を上ってあげている。</p> <p>・「ぼく」の部屋でねること。</p> <p>・エルフは「ぼく」の犬だから。</p> <p>・今まで一緒に寝ていたから。</p> <p>・「エルフ、ずうっと、大すきだ</p>	<p>☆教科書の持ち方、姿勢、口の開け方が正しくできない児童へ声をかけ気づかせる。</p> <p>・エルフは、いっしょに大きくなった大切な存在であることを思い起こさせる。</p>

	<p>になんといっていますか。</p> <p>○どうしてこんなことを言うのかそれを考えるために視写しましょう。終わった人は、一人学びをして待ちましょう。一人学び(作業が進んでいる児童のための手立て)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ひとりまなび</p> <p>①よみかえす。</p> <p>②「ぼく」がしたことにはせんをひく。</p> <p>③「ぼく」のきもちをかんがえる。かけるひとはきもちをかきこむ。</p> </div> <p>(4) 学び合い</p> <p>○「ぼく」が、エルフにしてあげたことはなんですか。</p> <p>(一つ目について考える)</p> <p>○なぜやわらかいまくらをやったのでしょうか。</p> <p>(二つ目について考える)</p> <p>○「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と、どんなときに言ってあげたのですか。</p> <p>○ときどきいつてあげていたのですか。</p> <p>○それは、どの言葉で分かりますか。</p> <p>○言った言葉を読んでみよう</p> <p>○ぼくはエルフをどれくらい好きなのですか。</p> <p>○「ずうっと」とはいつまでですか。</p> <p>○「ずうっと」を除いて読んでみましょう。どんな感じがするのでしょうか。あると、どんな感じがするのでしょうか。</p>	<p>よ。」</p> <p>・視写</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ぼくは、エルフにやわらかいまくらをやって、ねるまえには、かならず、「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」</p> <p>って、いつてやった。</p> </div> <p>① やわらかいまくらをやった</p> <p>② ねるまえに、大すきだよってあげた</p> <p>・よわっているから。</p> <p>・やわらかいほうがきもちがいいから。</p> <p>・ねるまえ</p> <p>・いつも。毎日。</p> <p>・かならず。</p> <p>・「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」</p> <p>・大すき。</p> <p>・とてもすき。</p> <p>・いつまでも。</p> <p>・「ぼく」が大きくなっても。</p> <p>・ずうっとがあると今だけではなくこれからも、もし死んでしまったとしても好きだということ。</p>	<p>☆視写ができない児童には教科書を示しながら1字ずつ書かせる。</p> <p>評 ぼくの気持ちを想像しながら視写することができる。</p>
4	<p>学習のまとめ</p> <p>○ぼくは、どんな気持ちでエル</p>	<p>・視写部分を一斉読。</p>	

ま と め る 5 分	フにあってあげていたかを考 えながら音読しましょう。 5 次時の学習内容確認		・次時は、エルフとお 別れした後のぼくの 気持ちを考えていく ことを押さえる。
--------------------------------	--------------------------------------------------	--	--------------------------------------------------

(3) 具体の評価規準と支援の手立て

評価規準	具体の評価規準と支援の手立て		
「ずうっと、大すきだ よ。」と、エルフにいっ てあげた「ぼく」の気 持ちを想像することが できる。	A	B	支援の手立て
	視写を通して、「ぼく」 の気持ちを想像すると ともに、音読や発表で 表現することができる。	視写を通して「ぼく」 の気持ちを想像するこ とができる。	教科書の字を指で押さ えながら1字ずつ視写 させる。
※視写・発表・表情から評価する。			

(4) 板書計画

ずうつと、ずつと、大すきだよ

なぜ、ぼくは、エルフに
「ずうつと、大すきだよ。」
といってやったのだろう。

挿絵

挿絵

ぼくは、エルフにや
わらかいまくらをやっ
て、ねるまえには、か
ならず、

「エルフ、ずうつと、

大すきだよ。」

つて、いってやった。

ひとりまなび